2019

J･A･C

（第 45 号）

平成 31 年 1 月発行

日本山岳会千葉支部

発 行 者　三木雄三
編 集 者　吉野 聰
事 務 局　〒283-0116
山武郡九十九里町西野672-2
三木雄三方
Ｔ Ｅ Ｌ　0475-76-9467
E-Mail 支部だより参照

（表紙の絵）「白富士（箱根関所跡）」
水彩画　小菅一弘　作　（敬称略）

“房総半島郡界尾根 ” 最終地点に無事到達

12 月 8 日(土)　　吉野聰

平成 26 年 11 月、東京湾からｽﾀｰﾄした房総半島郡界尾根踏査も今回が最終踏査となる。ｽﾀｰﾄに先立ち山口ﾘｰﾀﾞｰから「最終地点まで 2 ｷﾛ弱、距離はわずかだがﾔﾌﾞが密生、ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝもあり最後の崖が手ごわい、安全を期していこう」との注意。10 時 15 分出発。前回終了地点の切通の急斜面を慎重に登り尾根に取りつく。ﾏﾃﾊﾞｼｲの生い茂る尾根道は滑りやすくｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝが続きその上朽ちた鹿よけ柵の鉄線が飛び出して歩行の邪魔をする。195 ﾒｰﾄﾙﾋﾟｰｸの西側を南進、JR 外房線小湊ﾄﾝﾈﾙ、国道 128 号内浦ﾄﾝﾈﾙの上部を越えてｻｻをかき分けて進む。太平洋が木々の間から見えてくる。この周辺の海岸は、山が海に向かって切れ落ちる断崖絶壁の難所。ｷﾞﾘｷﾞﾘまで進んだところで 30 ﾒｰﾄﾙのﾛｰﾌﾟ 2 本設置して脇に降りる。ヤブに覆われた足場の悪い急斜面

を一人一人慎重に下降。一旦、中腹の道路に出て、更に崖の踏み分け路を注意深く下り、午後 2 時全員無事に海岸に降り立ち太平洋に到達。

この最終到達地点は “おせんころがし” の西側、勝浦市（上総）と鴨川市（安房）の境界の地点。崖の中に出来たわずかな砂浜だ。ﾒﾝﾊﾞｰは海の香りを胸一杯吸い込みながら踏査完了の喜びを分かち合った。

当日の夜は、内浦山県民の森「森の宿せせらぎ」で打ち上げを兼ねて支部忘年会。大盛況だった!!

（参加者　14 ページ）

千葉支部小疇尚会員に秩父宮記念山岳賞

平成 30 年度年次晩餐会で表彰

平成 30 年度秩父宮記念山岳賞は千葉支部などが推薦した小疇尚会員(千葉支部)が栄えある受賞に輝いた。

秩父宮記念山岳賞とは「山に関して造詣の深かった秩父宮殿下及び同妃殿下の事跡を長く記念するため、山に関する顕著な活動又は業績に対してこれを表彰し、もって登山活動の奨励と山岳関係諸文化の高揚に資すること」を目的として創設されたもので、12月1日(土)開催の年次晩餐会の席で授与された。

小疇会員は明治大学名誉教授で専門は自然地理学、地形学。今回の受賞のﾃｰﾏは「日本の山岳景観に関する研究」で、日本の山岳景観の成り立ちや特徴を明らかにした功績、さらに野外観察等を通じて専門家だけでなく一般市民や登山愛好家に対して日本の山の魅力や山の自然に関する知識の普及に貢献されてきたことが評価されたものである。

授賞式に先立ち、恒例の記念講演会が隣接した会場で行われた。世界の山々と日本の山を比較した比較地形学の興味ある話に、お忙しい公務の中ご臨席された皇太子殿下も熱心に耳を傾けられていた。

三木雄三千葉支部長は「千葉支部会員の小疇先生の今回の受賞は千葉支部としても大変な名誉。これからも研究を続けてほしい」と話した。

平 成 30 年 度 年 次 晩 餐 会

平成 30 年度年次晩餐会が 12 月 1 日(土)東京・新宿の京王ﾌﾟﾗｻﾞﾎﾃﾙで開催された。

広い会場は全国から集まった山岳会員で埋め尽くされた。千葉支部からは 14 名の会員が参加して全国の仲間と交流を楽しんだ。

(写真)

会も盛り上がる中、秩父宮記念山岳賞受賞の小疇会員を囲み、日本山岳会小林会長、芳賀ご夫妻とともに記念撮影。

(参加者 14ﾍﾟｰｼﾞ)

唐　沢　山　ハイキング

10 月 14 日(日)　　高橋琢子

ようやく秋の気配が感じられるようになった日、東武佐野線「堀米駅」に降り立った。思いがけず、駅からは昨年支部山行で行った、全山チャートの大小山が望めた。

杉本リーダー以下参加者は、駅前で小嶋先生の秩父宮山岳賞受賞を祝福し、支部報に掲載された「山美化」を実践しようとリーダーが作成した缶バッチを付けて、午前１０時２０分に出発した。

唐沢山は、現在は神社が建立されているが、かつては山頂に本丸、一帯に曲輪が配置された山城で、戦国時代には上杉謙信の十数度にわたる攻撃を受けたが、度々撃退して謙信を悩ませたという。「関東一の山城」と称される所以だそうだが、知識の乏しい私は興味津々、山歩きの楽しみが広がる。

のどかな住宅地から林道に入り、杉林から雑木林へと植生が変わっていくと、柿、栗、アケビなど秋の実りが。桜の大木も加わり、落葉広葉樹の競演に心が和む。更に登山道に進めば、萩の花のトンネルと足元にはオケラの花。いかにも秋らしい趣のある花たちが待っていた。小さなアップダウンを繰り返すとその先では関東平野の眺望もすばらしく、尾根を切るように作られた「堀切」は、意識を歴史へと戻した。

昼食後、いよいよお城の核心部へ。築城時から水が絶えないという大きな井戸、堅固な城の要となった「四ツ目堀」、馬場跡、そして本殿のある本丸跡。この本丸は立派な高石垣の上にあり、往時の面影を忍ぶことができた。

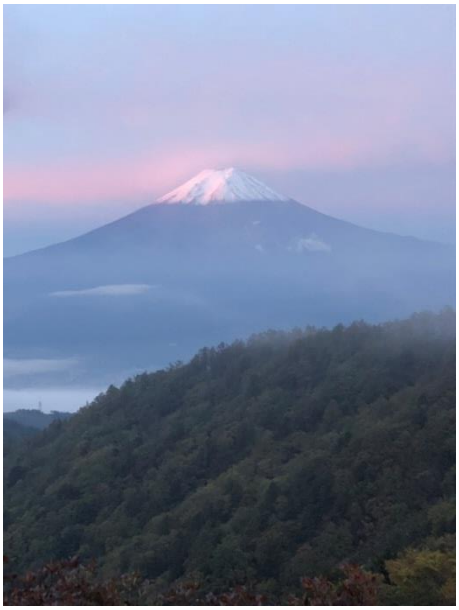
午後１時半、苔むした石垣を振り返り振り返り、京路戸峠に向けて下山を開始した。緩やかな里山をのんびり歩くのは楽しい。まして、歴史の遺構や見どころがたくさんあればなおさらだ。こんな機会を下さった杉本さんに感謝！もっと、時間をかけて国指定史跡「唐沢山城」を観なければ。皆さんも是非！！

参加者　：　杉本正夫（Ｌ）、高橋琢子（ＳＬ）、新井好夫、鎌谷繁、神山良雄、小嶋尚、香高真奈美、小林義亮、塩塚生二、髙橋正彦、吉野聰、竹園清隆　　１２名

紅陽氏と富士山と jazz の三つ峠

10 月 14 日(日)~10 月 15 日(月)　　渡部孝雄

朝7時に、松田L宅を出発したが昨日から雨が降り続いている。午後からは回復するとの天気予報を信じ山行を決行する。途中、明るくなったが、山に近づくにつれ俄かに雨が降り始めた。雨の登山は気がむかぬもの。天気予報を信じ松田 L の提案で雨上がりまでの時間つぶしに岡田紅陽写真美術館へ行くこととなった。岡田紅陽は、1916 年忍野村からの富士山に出会い、生涯富士山撮影にその身をささげた写真家である。ここは皆さん一見の価値大ありです。その後、製麺所で紹介された古民家風の店で美味しいうどんをいただき、いざ登山口へ出発。午後 1 時に登山口に到着。雨も上がり、準備運動をして三つ峠山荘へ登山開始する。現在の三つ峠の由来としては、山頂付近にわき水があることから水峠と呼ばれ転化した説、三つの尖峰(ﾄｯｹ)があることから、ﾐﾂﾄｯｹと呼ばれ、それに文字あてたという説。また、この三つの尖峰は木無山、御巣鷹山、開運山を指すという説や、開運山の三つの尖峰を指すという説に分かれている。ひたすら山荘のｼﾞｰﾌﾟが登る道を 1 時間登り、ゆっくり休憩を取った。途中にはﾄﾘｶﾌﾞﾄの青紫の花が咲いていた。まだ蕾を付けた株も多く有り、3 日後にはﾄﾘｶﾌﾞﾄの花畑が期待できそうだ。山荘近くになると鉄編みで囲まれた所があった。高山植物(特にｱﾂﾓﾘｿｳ)を動物、人間から守るための柵である事が分かった。3 時前に山荘に到着したが曇りで富士山見えず。開運山は明日行くことにして早々に飲み始めることになった。山荘のｺﾚｸｼｮﾝのｼﾞｬｽﾞ(懐かしき LP ﾚｺｰﾄﾞ)を聞きながら優雅に飲み、贅沢な時間に感謝しつつ 10 時頃就寝した。夜明け前に起き窓の外を見ると新雪を冠った富士山が綺麗に見えた。朝飯を食べる頃には富士山は半分しか見えなくなり、食事後に開運山まで登ったものの、残念ながら初冠雪のその姿を拝むことはできなかった。その代わり綺麗な雲海が広がっていたことに感動した。山荘を 9 時過ぎに出発し、昨日登ってきた道をｺﾞﾐ拾いしながらﾄﾎﾞﾄﾎﾞと下山した。



参加者:L 松田宏也、平出正美、渡部孝雄　　3 名　　(ビスターリ倶楽部山行)

黄葉のﾌﾞﾅ美林に遊ぶ:信越ﾄﾚｲﾙ

10 月 25 日(木)~27 日(土)　　渡部孝雄

(1 日目)9 時 30 分ﾏｲｸﾛﾊﾞｽで宿を出発、途中飯山駅で新幹線組の 8 人と合流し、斑尾山登山口に向け出発。登山口にあるﾚｽﾄﾗﾝﾁﾛﾙでﾄｲﾚ・準備体操を行い、10 時 37 分ｹﾞﾚﾝﾃﾞ内を歩くかえでの木ﾄﾚｲﾙから登山開始する。1km ほどｹﾞﾚﾝﾃﾞ内を上る。急登部分もあるが、振り返れば飯山盆地、紅葉、黄葉した木々が見え眺望を楽しむことができた。途中、休憩を 2 回取り、斑尾山に 12 時 50 分に到着。すぐ近くにある、展望が良く風がよけれらる大明神岳で 13 時 05 分から 25 分間、昼食休憩となった。紅葉の中で食べるおにぎりが格別美味しかった。大明神岳から斑尾山に戻り万坂峠に向かう。途中 1 回休憩して 15 時 10 分万坂峠に到着する。筋肉痛防止の体操を行い、迎えのﾏｲｸﾛで宿へ 15 時 50 分無事到着。

(2 日目)今日の行程は長いので 7 時に宿を出発する為、朝食、昼食は宿でお弁当を用意して頂きました。宿を出たときは曇っていたが途中雲の上となり快晴となった。とん平ｹﾞﾚﾝﾃﾞに 7 時 20 分に到着し、ﾄｲﾚ・準備体操を行い、7 時 40 分ｹﾞﾚﾝﾃﾞ内のﾄﾚｲﾙを辿り仏ｹ峰登山口に向かった。仏ｹ峰の山頂はわからないまま通過する。今日のﾄﾚｲﾙは快晴、紅葉、黄葉も

見事である。10 時 15 分に小沢峠を通過、鍋倉山には 12 時 50 分到着。昼食休憩を 35 分取った。13 時 58 分に黒倉山を通過する。北側が開けているので日本海が望める所であるが多少靄がありきれいには見えなかった。関田峠に 15 時 10 分に到着。体操を行い迎えに来たﾏｲｸﾛで宿へ向かう。明日は、天候が悪くなると言うことで、運転手(高原院住職)のご厚意で紅葉観光をして頂いた。16 時 30 分宿に到着。

(3 日目)雨でﾄﾚｲﾙは中止。おみやげを買うために道の駅へ、帰ることも考えず沢山買っていたが重かったのでは･･･。最後に、高橋まゆみ人形館に行って、11 時に解散となった。今回の山行は 2 日間の好天、見事なﾌﾞﾅ美林の黄葉、美味しい料理の宿、癒しの戸狩温泉と最高の山旅であった。

参加者: CL 松田宏也、SL 吉野聰、SL 宮崎美智代、三品京子、柳川しげよ、梶田義弘、小林義亮、湯下正子、平出正美、高橋琢子、羽藤美代子、山崎完治、渡部孝雄　　13 名
(ビスターリ倶楽部山行)

八ヶ岳 編笠山 青年小屋(遠い飲み屋)の小屋閉めに参加して

11 月 3 日(土)～4 日(日)　　宮崎美智代

ﾋﾞｽﾀｰﾘ倶楽部の山行は、信越ﾄﾚｲﾙに続いて 2 回目の参加です。今回は小屋閉めとあって酒豪の方 14 名参加との連絡。皆様のはりきった姿を浮かべつつ準備をした。

11 月 3 日、千葉始発のあずさ 3 号に乗り小淵沢で下車、ﾀｸｼｰで集合場所の観音平に向かい車組と合流。電車内は紅葉の時期と連休が重なり指定席の通路までいっぱいだった。

登山口でｽﾄﾚｯﾁを行い、10 時 30 分編笠山、青年小屋へと出発。登山口からはｶﾗﾏﾂの黄葉の林と笹の茂る道を行く。暫く登ると山の成り立ちに詳しい支部長から「八ヶ岳は火山地域で、地形や植生に特徴がある」と説明して下さった。まず、ｶﾗﾏﾂの林ではﾊﾟｲｵﾆｱと呼ばれる、噴火後の溶岩にいち早く根付いたｶﾗﾏﾂの木があり、通常の樹形ではないという。暫くそれらしき木を探し認定を受けた木を撮影した。また、ｼﾗﾋﾞｿとｺﾒﾂｶﾞの葉のつき方の違いや、ｽﾘ鉢状の地形は小さな噴火口だったと教えていただいた。

押手川でお昼休憩をとり、山頂まではあと一息という所で松田さんお勧めのﾋﾞｭｰﾎﾟｲﾝﾄ「ﾄｶｹﾞ岩」で南ｱﾙﾌﾟｽの絶景を堪能した。

山頂に着いたのは 15 時 15 分、頑張った私達に午後 3 時の山頂の光はとても暖かった。そして赤提灯のぶら下がる遠い飲み屋へと急坂を慎重に下った。

18 時からの夕食の前に食前酒が用意され、山口さんの手作りｷﾝﾋﾟﾗに感動しつつ、小屋閉めの夕食が始まった。本当にここが 2000m 以上に建つ山小屋なの?と思う程の美味しい料理とお酒を頂き、皆さん楽しそうだった。

2 日目、11 月の山はさすがに冷え込み岩場に霜が降りていた。白い息を吐きながら薄霧の中、巻き道のｺｰｽを下山、11 時半には観音平に余裕の到着。

綺麗な紅葉と美味しい料理&お酒を味わえた、贅沢な山行となった。

「参加者」L 松田宏也、三木雄三、山口文嗣、湯下正子、吉野聰、三品京子、平出正美、渡部孝雄、柳川しげよ、前田栄三、坂上光恵、古谷清美、山崎完治、宮崎美智代　　14 名
(ビスターリ倶楽部山行)

扇　山　と　百　蔵　山

11 月 10 日(土)　　山本哲夫

中央高速を通る度に扇を広げた山が扇山だ。前週の下見に続き百蔵山(1,138 ﾒｰﾄﾙ)と扇山(1,003 ﾒｰﾄﾙ)に。東京駅に集合、高尾駅で電車が止まる前に反対ﾎｰﾑの甲府行電車が走り始めていた。猿橋駅 9 時 15 分着、駅から中央高速の下をくぐり、市営ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞに。天候晴れ、気温高く、夏のようだ。半袖で歩くが汗ばむ陽気。富士山展望の良い民家で水を補給。昨日の雨で雪化粧した富士山にｶﾒﾗを向けたが樹々があって絵になりにくかった。欅の黄色と快晴の青空が似合う。やっと樹林帯に入ると気温が低く歩きやすくなった。水場から左の斜面へ。先週黒い腕時計を拾った場所を過ぎ尾根に出ると赤松の見晴らし台。眼下に中央高速が走っている。富士山に雲が掛かってきた。稜線に出ると今年の台風で倒れた赤松が目立った。百蔵山の山頂は人気の山で沢山休んでいた。富士山は前週と同じで雲がかかり残念。それでもﾀｲﾑﾗﾌﾟｽﾑｰﾋﾞｰを 20 分間ｾｯﾄした。ｼｰﾄを広げ、ｺﾛﾝﾋﾞｱとﾓｶｼﾀﾞﾓをﾌﾞﾚﾝﾄﾞしたｺｰﾋｰをﾄﾞﾘｯﾌﾟして楽しんだ。20 分間の撮影が終了したら、富士山頂が少し現れた。期待して 15 分間の撮影を追加したが雲はとれず。記念写真撮影後、扇山に向かった。林さんは、膝の程度から無理をせずに下山。百蔵山からの下りは急で樹々をしっかり利用して降りた。下ってからも小さなｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝが有り、めげずに進む。扇山へは、息が切れないようなﾍﾟｰｽで登る。扇山山頂は直ぐのようで遠かった。山頂で 15 分間休んで下る。下り道は、整備されていて歩きやすい。舗装に出てから遠かった。駅前に酒店があって疲労が和らいだ。40 分発の電車まで 10 分有り着替えしﾎｰﾑへ。高尾駅から特別快速で持参した 400ml、濃度 40 度の嗜好飲料を 2/3 消化できた。

山美化実践 9 点 ﾀﾊﾞｺ吸い殻 2 個、飴袋、紙、ｱﾙﾐﾌﾟﾙ蓋他でした。

家に帰ってから、山美化のｺﾞﾐを写真撮影のため広げたら、妻に何これと叱られた。山で拾ったｺﾞﾐだよ。ｺﾞﾐなんか持ってこないで頂戴。昼食後、齋藤さん提案の山美化運動を説明、誤解がとれた。これから、堂々と、持って帰れる。後日、早朝検見川浜の突堤で撮影していた時、1 人の釣り人がｺﾞﾐを拾ってﾚｼﾞ袋に入れていた。

参加者　山本哲夫 L、三田博 SL、山田紀夫、宮崎美智代、三品京子、林静枝　　6 名

東京湾から印旛沼まで　第一回目

2018.11.18　　小林義亮

今回は東京湾検見川浜から花見川を遡って大和田の分水界に至るｺｰｽ。出発点は検見川浜。今日はｳｫｰｷﾝｸﾞ日和である。

ここは東京と千葉を結ぶ首の部分ともいうべき大動脈なので、すぐに京葉線、東関東自動車道、国道14号線、京成、JR総武線などの高架下を次々に通過する。しかしこの風景も6ｷﾛ地点を過ぎた辺りから両岸が広がって緑が多くなり、千葉市内とは思えない牧歌的な風景と変わっていく。

9ｷﾛ地点を過ぎると風景は更に様相が変わり、木々が茂る間から見る水面は殆ど水流がないので、そよぐ風がさざ波を起こし、どこかの高原にいるかのようである。

3時間近く歩いて昼食の花島公園に着いてここで30分ほど食事ﾀｲﾑとなった。地図で見る限り風情のない道としか思えないｺｰｽと思えたが、歩いてみると意外に変化に富んでいたのでみな満足げである。ここで集合写真を撮って出発。

ｺｰｽに戻る前に背後の高台にある花島観音として有名な天福寺に寄った。寺伝では和銅2年（709年）の草創という古刹である。

参拝の後、再び左岸の小道を進む。道の両側には大木が続き、落ち葉が降り積もった道は右の水面と相まって幽邃の感を生ぜしめる。小鳥の声がする。因みに花見川で見られる鳥は18種を数える。この川は鳥にとってもまさに都会のｵｱｼｽである。

さて右手に国道16号が見え出すと再び都会の喧噪に立ち戻って最終目的の大和田水門（排水機場）も近い。

国道296号（成田街道）に架かる大和田橋からみる水門は立派な構築物である。水門の裏側は新川の源流。とはいっても水門を通して一体となった河川である。印旛沼周辺の水位が上昇して水田の冠水するのを防ぐためにﾎﾟﾝﾌﾟｱｯﾌﾟして花見川に流し込む機能を有している。

出発地点の海岸からここまで16ｷﾛ。一人の落伍者もなく思わぬ変化に富んだｺｰｽに満足し、次回、千葉ﾆｭｰﾀｳﾝ中央駅から大和田水門への参加を誓い合って最寄りの京成大和田駅へと向かった。

〈データ〉コースタイム

検見川浜出発	09:55
花島公園着	12:25
同出	13:00
大和田水門着	14:30

参加者　　杉本正夫（L）、香高真奈美、小林義亮、塩塚生二、高橋琢子、松田宏也、柳下忠義、吉田望、竹園清隆　　９名

「紅葉の鎌倉ｱﾙﾌﾟｽ」ではなかったけれど

11 月 23 日（金）　　梶田義弘

午前 10 時前、北鎌倉駅に到着した電車から乗客が降り立つと、狭いﾎｰﾑはあっという間に人で埋もれた。人混みで改札口に進めない。行楽ｼｰｽﾞﾝ 3 連休の初日、天気は快晴。ただでさえ観光客の多い鎌倉は、紅葉を求めて人でごった返していた。

早々に喧噪の駅を離れて、近くの公園で準備体操をし、10 時 40 分、山登りｽﾀｰﾄ。わずか 7 分で尾根に到着し、記念撮影。ここは昔、相模、武蔵、伊豆、上総、下総、安房の 6 国が見渡せたという六国見山の展望台があり、この日は頭に白い雪をかぶった富士山や伊豆半島、東京ｽｶｲﾂﾘｰまできれいに見えた。

いったん市街地に降り、天園ﾊｲｷﾝｸﾞｺｰｽの登山口に向かったが、道を間違え、迷子状態に。磁石や地図を駆使してたちどころに方向を見定める山のﾍﾞﾃﾗﾝも、市街地では勝手が違うということか。最終的には、見知らぬおばさんﾊｲｶｰの後についていくという作戦が奏功し、再び山に入ることができた。

驚いたのは、山中でも人の多いこと。まるで高尾山状態だ。1 時間ほど歩いて天園に到着し、各自昼食をとった。少し前まで、ここに 2 軒の茶屋があったが、1 軒は跡形もなくなっていた。老齢で店をやっていけなくなったのか、何にしても残念なことだ。

午後 1 時に天園を出発し、獅子舞谷へ。獅子舞谷は本来、紅葉の名所らしいが、葉は茶色く枯れ、紅葉らしい紅葉は見られなかった。これは鎌倉市内もほとんど同じで、今年は台風による塩害でやられてしまったらしい。市街地に降り、午後 2 時 15 分、ｺﾞｰﾙの鶴岡八幡宮に到着した。

今回は久しぶりに息子の天兵を連れての親子ﾊｲｷﾝｸﾞ。快晴の鎌倉ｱﾙﾌﾟｽを十分に楽しんだ。我々は直帰したが、ほかの人たちは船橋で反省会。紅葉の代わりに自分たちの顔を赤く染めていたそうです。

参加者　　松田宏也（L）、吉永英明、小川和敏、高橋琢子、宮崎美智代、山崎完治、宇津木仁典、梶田天兵、梶田義弘　　9 名　　（ビスターリ倶楽部山行）

晴香園の子どもたちと日の出山

11 月 24 日(土)　　香高真奈美

秋の三連休の中日、好天の朝 9 時 15 分に御嶽駅に集合。いきなり少年のひとりが「ﾐｯｷｰ♡」と我らの支部長にまとわりつく。久々に会えて照れながらも嬉しそうです。

まずはﾊﾞｽに乗りｹｰﾌﾞﾙｶｰの滝本駅へ。そこから 6 分の乗車で御嶽山駅、紅葉の山が綺麗です。樹齢一千年の神代ｹﾔｷを仰いで武蔵御嶽神社(929m)では手水鉢の前で「この柄杓の使い方わからないよ-」と子供たち。ならばと一緒にやってみてそして参拝。更に上にある遥拝所で遥かの「奥の院」や「鍋割山」を拝みました。

こんどは日の出山へ。途中の「緑色凝灰岩」の大岩の前でも「海の底、隆起」という言葉が子供たちからどんどん出てきて頼もしいことです!

12 時 10 分山頂(902m)着。とても混雑してる中での昼食ﾀｲﾑでした。下山はつるつる温泉方面へ。そこのﾊﾞｽ停から武蔵五日市駅まで乗車。「来年 1 月の鋸山にもまた元気に一緒に登ろうねっ」と言ってお別れしました。

参加者　晴香園の子供 5 人、職員 2 人。
(L)三木雄三、三田博、山田紀夫、三品京子、湯下正子、廿楽敦夫、吉田望、國宗文、塩塚生二、香高真奈美　　10 名

房総半島郡界尾根踏査報告書を作成しています

千葉支部は公益事業の一つとして房総半島郡界尾根の踏査を進め、平成 30 年 12 月 8 日に無事に終了しました。平成 26 年 11 月 29 日に踏査をｽﾀｰﾄ、夏の暑さやﾋﾙやﾊﾁ、ﾏﾑｼ対策のため 11 月から 3 月までの期間、道なき道の藪をかき分けて進むという条件のもとで、4 年間にわたり 21 回、延べ 210 人のﾒﾝﾊﾞｰが参加して取り組んでまいりました。

千葉支部としては、この成果を報告書としてまとめるべく作業中です。

発行の時期、価格等は固まり次第お知らせいたします。

また、この報告書をより良いものにしていくため会員、準会員、会友の皆さまからの資金的なご支援・ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

連絡先　　千葉支部事務局長　三田博
支部だより参照

年頭挨拶

期 待 渦 巻 く 年 に

公益社団法人日本山岳会　千葉支部長　三木雄三

新年明けまして、おめでとうございます。

さて、2019 年は暦の『己亥年』です。古来より、「己（つちのと）」は「足元を固め、次の段階を目指す準備」とされ、また「亥（い）」は「発芽に備え、ｴﾈﾙｷﾞｰを蓄える時期」と言われています。言い換えれば、「さあ、そろそろやるか」と新たな期待が渦巻く年とも言えそうです。

千葉支部も、準会員、会友を含めると約 140 人の大所帯になりました。支部の山行や個人山行に参加した新しい顔ぶれの人に話を聞いてみると「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄで千葉支部を知った」がほとんど。改めてﾈｯﾄ媒体の威力に驚かされました。年に 4 回発行の支部だより用に書きためた原稿をﾈｯﾄで発信することにより、山の情報がより早くお知らせできることが可能になりました。担当各位のおかげです。感謝申し上げます。

課題もあります。140 人も抱えていながら、支部の山行を含む支部活動に参加する人たちの固定化です。年齢の高齢化もありますが、果たしてそれだけが原因なのか悩みます。山岳会の基本的な目的は「山に登ること」です。それなのに、「支部山行に参加できない」あるいは「参加したくない」があるとすれば、「これまでの活動が失敗だった」と素直に反省しなければならないし、その反省に立ったうえで、新たな戦略を構築しなければ支部活動のさらなる前進はないでしょう。

さあ、『猪突猛進』。みんなが尊重し合い、同じ目線に立ち、目指す山に向かって進んで行きましょう。

エベレスト、ローツェ
（写真提供：齋藤米造会員）

２０１９年前半の山行計画

山行委員会では 2019 年の山行計画を策定しております。また今回から、その難易度も表示することといたしました。本号で前半の計画を掲載します。4 月までの計画は確定です。参加希望の方はﾘｰﾀﾞｰに申し込みください。5 月以降の計画については改めて次号に掲載しますが必要な方はﾘｰﾀﾞｰに問合せ下さい。また、ﾋﾞｽﾀｰﾘ倶楽部及び個人山行の計画も次ページに掲載いたしますので皆さまの参加をお待ちしております

（支部山行）

	山　系　名	難度	備　　考	リーダー	締切
1.13（日）	房総・寂光不動	B	新年山行	三田　博	1/6（日）
1.19（土）	房総・鋸山	W	晴香園、公益事業	三木雄三	1/10(木)
1.19（土）	丹沢・鳥尾山～塔が岳	C	展望良し	山本哲夫	1/13(日)
1.26（土）	湘南アルプス・高麗山	A	富士山と海の展望が良い	松田宏也	1/20(日)
2.9（土）	房総・高宕山	B	地域の山を知る	三田　博	2/2(土)
2.11（月）	東京湾から印旛沼　Ⅱ	W	10：00 千葉ニュータウン中央駅集合	杉本正夫	2/4（月）
2.16（土）～17（日）	4 支部懇談会		内浦山県民の森	三田　博	15 ページ参照
2.23（土）	三浦アルプス	B	梅見山行（仙元山～田浦梅林）	松田宏也	2/17(日)
3.5（火）～15（金）	ネパールトレッキング		クンブ地区　　定員 16 名	吉永英明	募集終了
3.30（土）	高川山	B	展望良し	三田　博	3/23（土）
4.6（土）～7（日）	虹芝寮ミーティング		栃木・群馬支部との懇談会	三田　博	3/30（土）
4.13（土）	裏鋸		岩稜登山技術向上①（初級岩登り教室）	山本哲夫	4/7（日）
4.14（日）	東京湾から印旛沼　Ⅲ	W	9：00　京成勝田台駅集合	杉本正夫	4/7（日）
5.3（金）～5（日）	尾瀬	D	残雪の尾瀬	三田　博	
5.12（日）	千葉支部総会		千葉市文化センター		
5.25（土）～26（日）	全国支部懇談会		日光アストリアホテル	三田　博	16 ページ参照
6 月	伊豆・天城山	B	シャクナゲ、馬酔木 6/8（土）～9（日）	松田宏也	5.19（日）
	三つ峠		アツモリソウと岩稜登山技術向上② 6/14（金）～15（土）	山本哲夫	

（ビスターリ倶楽部及び個人山行の計画）

日程	山　系　名	難度	備　　考	リーダー
1.20（日） ～22（火）	尾瀬岩鞍スキー　**B**		温泉古民家民宿泊 締切 1/10(木)	松田宏也
2.2（土） ～3（日）	赤岳～横岳	E	冬山上級者 締切 1/20(日)	山本哲夫
2.9（土） ～10（日）	山形蔵王スキー　**B**		山形山岳会山小屋泊　（ゲレンデスキー、定員５名）締切 1/10(木)	松田宏也
4.22(月) ～23（火）	蝶ケ岳	D	新緑と残雪の山　　上高地 締切 4/15(月)	三田　博
4.26（金） ～29（月）	佐渡の山　**B**	C	泊　節田さん宅及びトンデン山荘 定員になり次第締切	松田宏也
調整中(5)	大菩薩方面　**B**	B	明るく開放的な山　　平日、１泊	松田宏也
5.18（土） ～19（日）	八ヶ岳・編笠山　**B**	B	遠い飲み屋泊	松田宏也
６月	信越トレイル　**B**	C	新緑の鍋倉山周辺６月初旬平日２泊	松田宏也
	浅草岳　**B**	C	ヒメサユリ紀行６月下旬平日１泊	松田宏也

ビスターリ倶楽部及び個人山行表の山系名枠内の **B** はビスターリ倶楽部を表す。

難易度

W　ウオーキング、　**A**　整備され歩行２～３時間、　**B**　歩行５時間前後、
C　歩行７時間前後、一部岩あり体力要、　**D**　強い体力、岩技術要、
E　高い適応能力要、危険度大
（難易度は JAC 日本 300 名山を参考。岩、沢及び積雪期は難易度アップとする。）

リーダー連絡先

リーダー	メールアドレス
杉本正夫	※支部だよりに記載
松田宏也	※支部だよりに記載
三木雄三	※支部だよりに記載
三田　博	※支部だよりに記載
山口文嗣	※支部だよりに記載
山本哲夫	※支部だよりに記載

（五十音順）

※　メールアドレスは悪質な自動メールアドレス取得対策のため HP に掲載しないようにしています。

役　員　会　の　報　告

9 月報告　　9 月 18 日（火）　市川アイリンク

出席者　三木、山口、松田、三田、三品、上村、塩澤、廿楽、山田、山本、湯下、吉永、吉野　13 名

・４支部懇談会　内浦山にて　・支部山行　仙丈ケ岳 8.25～26　10 名、　聖岳・光岳中止

・山行計画　10.7～8 平が岳、10.18 唐沢山、11.10 百蔵山、11.24 奥多摩、12.4 郡界尾根

ビスターリ倶楽部　信越トレイル、編笠山、鎌倉アルプス、赤岳

・ネパールトレッキング概要、　・支部だより　20 ページ

10 月報告　　6 月 19 日（火）　市川アイリンク

出席者　山口、松田、三田、三品、塩澤、杉本、山本、湯下、吉永、吉野　10 名

・4 支部懇談会　講演講師、タイムスケジュール

・マイカー規定　　第 3 条④を削除

・全国支部合同会議　　1120 周年記念事業準備体制、会員増強、ヒヤリハット事例収集

・山行報告　聖岳・光岳、平が岳　中止代替白毛門笠ヶ岳に、唐沢山 10.14　12 名、

・山行計画　10.29 奥多摩御前山、11.10 百蔵山、11.24 日の出山（公益事業）外

ビスターリ倶楽部　　三つ峠、10.25～27 信越トレッキング、11.3～4 編笠山

11 月報告　　11 月 20 日（火）　市川アイリンク

出席者　三木、山口、松田、三田、三品、上村、髙橋（正）、山田、山本、湯下、吉野　11 名

・山行報告　御前山中止、11.10 百蔵山 6 人、11.08 印旛沼 9 人、10.25～27 信越トレイル 13 人

11.3～4 編笠山 14 人

・山行計画　12.8～9 郡界尾根、忘年山行、・山行委員会から　次年度山行計画

・次年度事業計画について　　特に公益事業の検討　　家族登山連絡会委員山田委員を指名

・秩父宮山岳賞が小疇尚会員に贈呈（年次晩餐会において）・支部だより　1 月早々の発行

年次晩餐会参加者（12 月 1 日）

石岡慎介、小疇尚、櫻田直克、塩澤厚、節田重節、谷内剛、津田麗子、廿楽敦夫、行方正幸、三木雄三、三田博、柳川しげよ、山口文嗣、山本哲夫　　14 名

芳賀孝郎（千葉支部設立発起人）・芳賀敦子（北海道支部）、神山良雄（山梨支部、千葉支部会友）

郡界尾根参加者　（12 月 8 日）

山口文嗣（L）,岩尾富士夫（SL）、高橋琢子（SL）、三品京子、山田紀夫、髙橋正彦、小川和敏、柳下忠義、塩澤厚、松田宏也、吉野聰、三田博、平出正美、鈴木操、竹内進、小林義亮、神山良雄、渡部孝雄、上村紀子、三田芳江、湯下正子、小澤けい子、吉田明子、　　23 名

お　知　ら　せ

●会員の動向

≪入会≫

S.M.さん　(10383) 我孫子市　埼玉支部より転入

O.K さん　(16421) 市川市

●ﾏｲｶｰ使用要領規定の一部改正

支部だより第 45 号に掲載した「ﾏｲｶｰ使用要領規定」の一部を下記のとおりといたします。

「同規定第 3 条④反則金の条項を削除する。」平成 30 年 10 月役員会において決定

●山行委員会から

支部山行計画について、山行委員会として次のような考え方で作成しております。今後とも山行計画を充実していくため、皆さまからのご意見・ご要望をお聞かせください。

①支部の実情に合わせｸﾞﾚｰﾄﾞ B をﾒｲﾝに四季に合わせた魅力ある計画にして多くの参加者を募る。

②夏は 2~3 泊以上の縦走を全員に 1 回は経験してもらう。

③山行ﾘｰﾀﾞｰ候補を選び養成する⇒山行計画を割り当ててﾘｰﾀﾞｰをとってもらう。

④冬山に行きたい人には初心者ﾚﾍﾞﾙから指導する。

⑤ｸﾞﾚｰﾄﾞｱｯﾌﾟを希望する人、期待できる人には各種講習会に積極参加してもらう。

⑥房総の山は冬季に 1 回/月は計画し、ﾎｰﾑｸﾞﾗﾝﾄﾞ感を高める。

⑦支部山行のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝで個人山行を積極的に提案。

●千葉支部主催「4 支部合同懇談会」の開催について

期日　2019 年 2 月 16 日(土)~17 日(日)

場所　千葉県鴨川市内浦 3228　☎04-7095-2821

内浦山県民の森『森の宿せせらぎ』

2 月 16 日　13:00~講演会・合同懇談会

2 月 17 日　山行　A ｺｰｽ(登山)清澄山(350m)

B ｺｰｽ(観光)誕生寺・鯛の浦周辺

参加費　12,000 円　1 泊 2 食(お弁当付き)懇親会費込み

参加締め切り　平成 31 年 1 月 20 日

問い合わせ先　支部だより参照　千葉支部・三田博

参加費払込:ゆうちょ銀行の「払込取扱票」にて下記「払込先」に 1 月 20 日(月)まで

口座記号:00270-8　口座番号 105649

加入者名: 日本山岳会千葉支部　ﾆﾎﾝｻﾝｶﾞｸｶｲ ﾁﾊﾞｼﾌﾞ

通信欄:4 支部合同懇談会　A ｺｰｽまたは B ｺｰｽを明記する

参加費振込の確認をもって、参加申込みが完了したとします。

●全国支部懇談会は奥日光で 5 月に開催

2019 年第 35 回全国支部懇談会は下記の通り栃木支部が主催して開催されます。

期日:2019 年 5 月 25 日(土)~26 日(日)

宿泊:奥日光 光徳温泉「日光ｱｽﾄﾘｱﾎﾃﾙ」

栃木県日光市光徳温泉 ☎0288-55-0585

会費:20,000 円(1 泊 2 食懇親会・二次会、26 日弁当ﾊﾞｽ移動費用 等)

日程:5 月 25 日 12:00 より受付 講演会と懇親会

5 月 26 日①登山:湯元~切込湖、刈込湖~光徳牧場

②観光:ｲﾀﾘｱ大使館別荘記念公園見学 ③自由行動

問い合わせ先: 支部だより参照 千葉支部・三田博

参加締め切り: 平成 31 年 1 月 25 日

参加費払込:: 郵便局でゆうちょ銀行の「払込取扱票」にて下記「払込先」に 1 月 25 日(金)までに払い込んで下さい。

口座記号: 00270-8 口座番号 105649

加入者名: 日本山岳会千葉支部 ﾆﾎﾝｻﾝｶﾞｸｶｲ ﾁﾊﾞｼﾌﾞ

通信欄: 全国支部懇談会①②③のコース明記

●登山計画書の提出を

安心安全のため計画書は必ず作成して下さい。家族や職場に残すとともに、支部へ提出してください。万が一の時の手掛かりです。

ﾒｰﾙ受付窓口: 支部だより参照

編集後記

明けましておめでとうございます。支部だより第 45 号を新年号としてお届けします。

新年号で郡界尾根踏査が無事終了したことを報告できることは大変喜ばしいことと思います。このプロジェクトに参加した皆さま本当にご苦労様でした。

ところで、天候の影響で 9 月から 10 月にかけての山行計画の中止が続き、支部だよりを所定のページ数でお届け出来るか心配しましたが、皆さまの協力で何とか纏めることができました。とりわけビスターリ倶楽部の協力に感謝いたします。

山行計画については、支部山行とビスターリ倶楽部・個人山行をわかり易くするため見開きのページにしました。また、山行委員会の協力のもと半年分の計画を掲載してみました(4 月分まで確定)。今後は、山行計画の記事をもっと充実させていければと思っています。

最後になってしまいましたが、小疇先生の秩父宮記念山岳賞受賞おめでとうございます。これからも千葉支部のメンバーに山岳地形の面白さを教えてください。 (広報委員会)

印刷 三陽メディア株式会社